

## 活動計画書

法人名	特定非営利活動法人 チーム東松山				
活動名	能登半島地震緊急支援プロジェクト				
活動期間	令和6年6月15日 ~ 令和7年2月15日				
申請活動区分・分野	活動区分名	○ SDGs推進活動助成 自立促進活動助成			
	分野名	○ 人間	○ 豊かさ	地球	○ 平和 ○ パートナーシップ

## 1. 申請する活動の目的

<200字程度> 申請する活動により解決を図る地域課題、社会課題

2024年元日に発生した能登半島地震。災害ボランティアの総数は3月末現在で約25,000名と東日本大震災の3ヶ月間の約40万人(宮城・岩手・福島)と比べても圧倒的に少ない現状がある。また、珠洲・輪島等では倒壊家屋も多く、復旧・復興に不可欠な事業者の被害も甚大である。一刻も早く被災地の復旧・復興を進めるためにも埼玉県内で能登半島の現状と課題を共有し、産官学民の連携を深めるとともに地域を超えた被災地の支援体制構築が求められている。

<200字程度> 上記の課題に対し、申請する活動が必要となる理由

現地で行う災害ボランティア活動と連動して、埼玉県にて能登半島地震の「被災地の現状と課題」を広く県民に伝える活動を行うとともに、被災地の復旧・復興に必要な事業者の支援を継続的に行っていく必要がある。また、県内でも大規模災害の備えを進めるために、災害ボランティアの養成を行うとともに、行政や社協、大学、事業者等と連携して能登半島地震の支援体制の構築を進めるとともに埼玉での地域防災・減災の取組も進めていきたい。

## 2. 申請する活動の内容

<200字程度> 申請する活動の概要

- ①能登半島地震の被災地応援チャリティイベントの開催。能登半島の物産販売、会場でのミニ活動報告、被災地事業者・現地活動団体等への「支援金」募金等。
- ②災害ボランティア養成講座の開催。県内社協・市町の危機管理課等と連携して災害ボランティアの養成基礎講座を開催し、災害ボランティアを育成する。
- ③能登半島地震緊急支援プロジェクトの活動報告会の開催。発災から半年、一年の機会に現地の情勢や活動内容を報告する会を開催。



#### 4. 申請する活動の効果

##### <200字程度> 申請する活動の効果

能登半島という地形に伴うアクセスのしにくさ、地震による交通インフラの損壊等により、発災から3ヶ月が経過したものの、復旧に向けた課題は多い。被災地での災害ボランティア活動は現地に常駐する県内グループもあることから当法人も小規模・不定期に実施しているが、埼玉でのイベントや養成講座・報告会を通して、災害の風化を防ぎ、被災地で活動する災害ボランティアが育ち、支援金を通じて被災地の事業者を応援することができる。

##### <200字程度> 申請する活動の効果を得るために、申請者の特徴や強みをどのように生かすか

2011年4月より東日本大震災の被災地、宮城県東松島市・石巻市への復興支援活動を開始し、名前の似ている東松島市とは、官民合わせたの支援体制を構築できたこともあり、両市は友好都市となり、市民交流も現在まで続いている。当法人の東日本での13年間に及ぶ活動、2019年台風19号での被災体験を通じた災害ボランティア活動の体験を踏まえて、能登半島地震の被災地への息の長い、関係人口の増加に寄与する支援体制を構築したい。

##### <各項目100字程度> SDGsの17の目標に対する活動の効果(最大3個まで記入可)

1	目標名	3 すべての人に健康と福祉を	←17の選択肢から選択する
	効果	大規模災害の被災地では避難所や危険な自宅から仮設住宅へ住まいを移す人々が増えてきているが、復旧・復興に向けた「見通し」がたたず、大きな「不安」のなかにいる被災者が多い。地域間連携の支援を通じて被災者の健康と福祉の増進を図りたい。	
2	目標名	11 住み続けられるまちづくりを	←17の選択肢から選択する
	効果	能登半島地震で甚大な被害を受けた被災地では「住み続けられるまちづくり」ができるのかどうか、深刻な状況にある。被災地支援を通じて関係人口を増やし、物産販売や支援金募金を通じて地元で復活を願う事業者を応援したい。	
3	目標名	17 パートナーシップで目標を達成しよう	←17の選択肢から選択する
	効果	災害時に求められる行政・社協・NPOの三者連携を県内からも推し進め、災害支援ができる地域力の向上を図り、地域の防災・減災に向けた取組を促進したい。三者連携に加え、事業者や大学等のセクターとの連携も深め、県内各地の支援団体をネットワークで繋ぎたい。	

#### 5. 活動の継続・発展について

##### <200字程度> 活動を継続的に行うための課題、活動の継続性を高める方法、活動を発展させるための取組はどのようなものか

2011年の東日本大震災がきっかけで誕生した当法人でも、災害支援を担ってきたメンバーの高齢化が目立つようになってきた。現在、防災や危機管理に関心のある大学生や社会人グループと協働しながら災害支援に当たっているが、災害ボランティア活動が担える人材の育成が急務である。チャリティイベントや養成講座は新たな「人材」との出会いやボランティアの育成にも繋がるので、支援活動を展開しながら次世代に活動を継続できる体制づくりを進めたい。



<b>b.通信運搬費</b>	<b>15,000</b>	数値	単位	×	数値	単位	×	数値	単位
宅配便(チャリティイベント物産販売時、商品の着払い料金150サイズ)	15,000	1,500	円	×	10	個	×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
<b>c.旅費交通費</b>	<b>68,000</b>	数値	単位	×	数値	単位	×	数値	単位
交通費(石川県の被災地から埼玉県:東松山市で電車賃を計算)	68,000	17,000	円	×	2	人	×	2	回
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
<b>d.消耗品費</b>	<b>59,565</b>	数値	単位	×	数値	単位	×	数値	単位
屋外でのイベント時にパネルスタンドの転倒防止用注水ウエイト	10,550	1,055	円	×	10	個	×		
屋外イベントでテントの暴風対策用タープテントウエイト	20,880	3,480	円	×	6	個	×		
活動写真等印刷用プリンタインク(キャノンPIXUS純正インク)	15,480	5,160	円	×	3	個	×		
活動写真印刷用EPSON写真用紙ライト(薄手光沢)	4,581	1,527	円	×	3	個	×		
災害ボランティア養成講座等で使う文具類一式	8,074	8,074	円	×	1	式	×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
<b>e.備品費</b>	<b>0</b>	数値	単位	×	数値	単位	×	数値	単位
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		
	0			×			×		

